

ぎゅ ざっくばらん矢祭

2025 年 7 月 No: 3 - 43

編集・発行

矢祭ふるさと会事務局

〒204-0002 清瀬市旭が丘1-269-42

TEL 090-2752-2973

FAX 042-495-4183

令和7年度「矢祭ふるさと会」総会が開催された

令和7年6月21日、市ヶ谷のグランドヒル

市ヶ谷西館で、矢祭町の佐川正一郎町長、緑川裕之議長、古市賢自立総務課長、佐藤芳則商工会長、鈴木敏男・元議長と東京埼会八幡益男会長の各氏をお招きして、矢祭ふるさと会総会が盛大に開催されました。

佐川町長から「もったいない市場にふるさと会の皆様の協力に感謝申し上げる」とのお言葉が最初にあり、町の人口は5,100人位で少子高齢化が進んでいるが日本社会の問題であり、時代に即した町の政策と町民の幸せの為に防災関係を構築し、戸津辺の桜や矢祭山、滝川溪谷の観光資源を利用して人を呼ぶ、その一環として二年位前から構想を練り、早稲田大学生物同好会OBの協力を得ながら三月からプレオープンした「虫の里・福島奥久慈昆虫館」も今後人気を呼ぶだろうと話されました。

場所は小田川字弥三郎内2 江戸期古民家「旧佐川家の蔵」開館日:毎週日曜・祝日 午前10時～午後4時
入場無料、世界初公開! 90年前に絶滅した、日本ではこの1頭のみ知られるイピタスタイマイ(南米)の展示。

その他世界の美しい昆虫切手展示や氷河時代の遺物「天空の蝶パルナシウス」の展示等があると説明されました。

問合せは虫の里・福島奥久慈事務局 04-7111-0923

佐川町長のあいさつの後、緑川会長急病のため欠席したので、代わりに立花副会長が議長に選出され、議案第一号から議案第五号まで審議し、理事を選出後新役員が選出されました。

富永事務局次長の閉会の挨拶後懇親会に移り、来賓の方々のご挨拶を頂き、古市自立総務課長の乾杯で宴が開始されました。歓談後クオカードが当たるクジ引きを行い、当たった方には一言づつお話を頂き、当たった喜びや現況の話で大いに盛り上がりました。

矢祭弁で同級生の話題や故郷の「コメ卵」、戸津辺の桜は小さい頃、みすばらしくポツンと畑に咲いたのが手を加えらると素晴らしく、元気になるもんだね!と、地域の人々の熱意と行政の努力の賜

物と感謝しないとね。等々話していました。金沢顧問の万歳三唱で予定通り懇親会も無事終了しましたが、年々参加者が少なくなつて(今回は合計21名)います。どうか会員の皆様、総会・懇親会に参加頂き、懐かしい昔話に花を咲かせませんか! よろしく願いいたします。

別紙総会資料を同封しました



お近くの直売所に、来らっしょ!! コロナ禍で開催が不規則ですので、確認の上おいで下さい。

※開店は9:30～10:00から15:00頃迄、売切れ次第終了。

東北最南端の小さくても大きな町の農産物直売所

首都圏
[矢祭もっ
たいない
市場]の
農産物
直売所

- 毎月第2・第4日曜日【武蔵小山温泉 清水湯駐車場】品川区小山3-9-1(東急目黒線 武蔵小山駅東口徒歩5分)
- 毎月第3日曜日【城南信金大井支店】品川区大井1-6-10(JR京浜東北線 大井町駅徒歩1分)
- 毎月第1日曜日【城南信金品川支店】品川区南品川1-4-25(京浜急行 新馬場駅徒歩7分)
- 毎月第4水曜日【三島神社境内】台東区下谷3-7-5(地下鉄日比谷線 入谷駅4番出口より徒歩8分)
- 毎月第2水曜日【千束稲荷神社境内】台東区竜泉2-19-3(地下鉄日比谷線 三ノ輪駅下車徒歩5分)
- 毎月第1・3火曜日【昭和橋商店会】江東区亀戸6-43-1(JR総武線亀戸駅東500m/都営バス亀戸六丁目)



お問合わせ 矢祭町特産品開発協議会 ☎0247-46-3272

〒963-5118 矢祭町大字東館字館本52

矢祭町の歴史(昔の村・矢祭の由来)

緑川敏穂(埼玉県在住) ざつくばらんち

奥州陸奥の国(磐城の国) 白川郡「中石井村」天保三年(一八三六) 村明細帳より 前号からの続き
名所・旧跡

狐屋館跡 こやだてあと 字我満平から約30メートル山に入った所にあり(字館谷)

塙町伊香にある「伊香油館」の古文書に「北西に一、五〇〇メートル久慈川をはさんだ対岸の山地の尾根に「館跡」あり昔、江田左衛門(佐竹氏家臣)という城主の館屋など言い伝えあり」とある。常陸の国佐竹氏の南郷進出の最前線の城なのかと思料される。

我満平遺跡(字館谷)

久慈川護岸の段丘の上我満平の地に縄文時代の遺跡あり土器類が堀屈されている。

更に、大変珍しい縄文時代中期の「硬玉大珠」こうぎょくたいしゅ(翡翠の原石を磨いた石)が見つかっています。

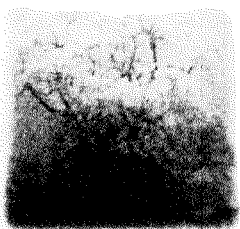
戸津辺の桜 (字戸津辺)

樹齢600年のヒガンザクラ、福島県指定の天然記念物である。枝は四方に大きく広がり傘状の姿は雄大である。花見シーズンには多くの観光客で賑わう。

戸津辺の桜

我満平遺跡

狐屋館跡



陸奥の国(磐城の国) 上石井村

古くは、高野郡大内村と言われ、江戸時代元和年代に天領地となり塙代官所の支配下となった。

安永七年(一七七八) 上組(上石井)と下組(中石井)とに分かれた。

明治三二年町村制施行により石井村となり、村役場を小野沢に置いた。同年棚倉に郡役を置き所一町一二ヶ村となった。豊里村、高城村、石井村(上石井、中石井、下石井、戸塚)となり、

この体制が六〇年続いた。昭和三〇年塙町に組み入れられ塙町の大字上石井となりこの年高城村の一部、内川、関岡、茗荷が別れ豊里村と合併して矢祭村が発足した。

昭和三二年中石井、下石井、戸塚が分町し矢祭村に組み入れられたが大字上石井はそのまま塙町に残った。

※「上石井村」は参考文献がありませんでした。

参考文献

一 資料にみる昔の村・今の村・・・矢祭町史編纂委員会

二 矢祭史 源藏・郡藏日記・・・右 同

後記

「村明細帳」とは、村役人(名主)が当時の村の様子を書き留めるというものではなく、徳川幕府や大名が、村を支配するために提出を命じたものに應える形で書き留めたものです。江戸時代の村勢要覧「村明細帳」をもとに矢祭町資料編纂委員会でもとめた「資料に見る昔の村・今の村」を、勝手に転載したのですが、「村明細帳」に記載されたそのままを転載していますので、現代の文章構成や表現と異なる所があると思います。終わり。最後までご覧頂きましてありがとうございます。

筆者